



# 島根県奥出雲町の 取り組みを視察

第二部では、公益財団法人ふるさと島根定住財団が実施する島根県奥出雲町での「しまね田舎ツーリズムモニターツアー」に参加。宮古島市に対する提案へのヒントを学び取る。



# 奥出雲町の取り組みを視察し、 地域づくりのヒントを学ぶ

第二部では、公益財団法人ふるさと島根定住財団が実施する島根県奥出雲町での「しまね田舎ツーリズムモニターツアー」に参加。地域づくり先進県である島根県における地域課題に対する取り組み事例を実際に体験することで、地域課題への取り組みを地域外部の視点で評価する力を得るとともに、宮古島市に対する提案へのヒントを学び取る。

実施日 3月7日(火)～3月10日(金)

## 第二部全体実施行程表

2017/3/7(火)		
時間	場所	内容
10:30-12:20	那覇⇒神戸	(移動) 飛行機/SKY590
13:00	神戸⇒奥出雲	(移動) 貸し切りバス/28人乗り ※バス内にて奥出雲町、たたらに関するDVD視聴
17:30	亀嵩温泉	到着⇒入浴
19:00	蔵屋公会堂	入村式&夕食 ※夕食準備等学生もお手伝い ・振り返りシート記入、集合写真撮影
21:00頃	閉会⇒各民泊先へ	★民泊先での体験など
2017/3/8(水)		
時間	場所	内容
9:00	たたらと刀剣館	(バス)8:00先生⇒8:20和夢⇒8:40蔵屋 館内見学
11:00	追谷集落集会所	そば打ち体験&昼食 ・追谷集落とたたらについて紹介 ・散策: 鉄池、桂の木、棚田見学⇒蔵家のお話等
15:00	斐之上温泉	バス移動⇒入浴
16:30	蔵屋公会堂	集落体験(直会準備、餅準備等)
18:00	スタート予定	懇親会(直会体験) ・振り返りシート記入
21:00頃	閉会⇒各民泊先へ	★民泊先での体験など
2017/3/9(木)		
時間	場所	内容
9:00	伝統産業会館	(バス)8:00先生⇒8:20和夢⇒8:40蔵屋 奥出雲町の概要紹介、定住財団事業紹介など
10:00	高田みんなの学校	空き家活用事例紹介①
11:00	みんなの場所まつ	空き家活用事例紹介②
12:00頃	ピストロソラ	ランチ
13:00	かがり屋	空き家活用事例紹介③
14:00頃	多根自然博物館(6F)	2日間の気付きワークショップ ・振り返りシート記入(WSに向け1.2日目分返却)
15:30	佐白温泉	入浴
17:00	蔵屋公会堂	離村式&懇親会 ・餅つき体験 ・集合写真撮影
21:00頃	閉会⇒各民泊先へ	★民泊先片づけ等
2017/3/10(金)		
時間	場所	内容
6:30	奥出雲⇒神戸	(バス)5:40先生⇒6:00和夢⇒6:20蔵屋 (移動) 貸し切りバス/28人乗り ★お見送り ・振り返りシート(バスまたは飛行機内にて)
12:15-14:35	神戸⇒那覇	(移動) 飛行機/SKY590

### 「公益財団法人 ふるさと島根定住財団」とは

(公財)ふるさと島根定住財団は平成4年に設立し県内就職を促進するための雇用環境整備やUターンへの支援等を実施、平成8年度からは産業体験事業など、定住を促進するための先導的事業にも取り組んでいます。

平成15年度には「石見事務所」、16年度には若年者の就職を総合的メニューでサポートするワンストップサービスセンター「ジョブカフェしまね」を開設、17年度には、Uターン希望者に対する無料職業紹介事業を開始し、Uターン希望者と県内企業とのマッチングを行っています。

また、平成20年4月から、それまでの地域づくり支援事業に「島根ふれあい環境財団21」が実施していた社会貢献活動部門の事業を継承し、一体的に事業を実施しています。

新しい公益法人制度に対応し、平成23年4月に「公益財団法人」となりました。Uターンの促進と県内定住を目指して、①若年者を中心とした県内就職促進、②県外からのUターンの促進、③活力と魅力ある地域づくりの促進の3つに取り組んでいる。  
ふるさと島根定住財団ウェブサイトより引用



### 「しまね田舎ツーリズム」とは

農山漁村は、自然の中に生きている「生命」、その恵みを頂く営みとしての「生産」、それらを楽しむ「生活」、この3つの「生」が混然一体に融合した大変意義深いところ。そこは、都市が見失った日本の伝統文化の源泉であり、豊かな自然や歴史、あるいは風土や人情が今なお残る、我が国にとって貴重な地域です。島根県が取り組んでいる「しまね田舎ツーリズム」は主として都市の住民の方々に、農山漁村の生活の体験や、民家等での宿泊を通じて、こうした本県の自然、風土、歴史、文化等に触れるとともに、地域の住民との交流を楽しんでもらおうという活動です。  
「しまね田舎ツーリズム取組紹介」より引用



島根県と奥出雲町の場所

平成 17 年 3 月に旧仁多町と旧横田町の合併により誕生した奥出雲町は、島根県の東南端に位置し、中国山地の嶺を隔て広島県と鳥取県に接する、神話に名高い斐伊川の源流域にあります。

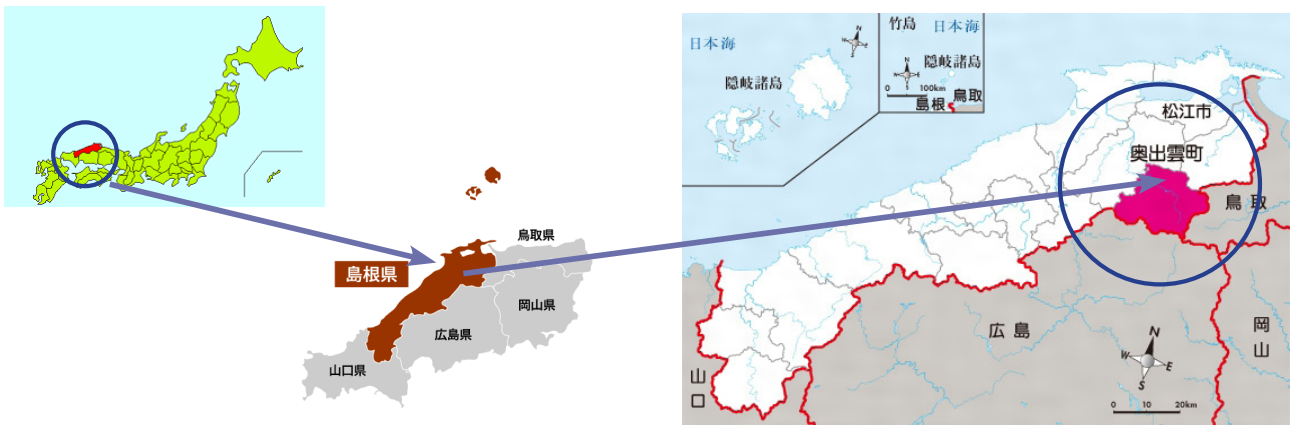
この奥出雲の地は、古事記、日本書紀の八岐大蛇（ヤマタノオロチ）退治や、素戔鳴尊（スサノオノミコト）が降臨したと伝えられる出雲神話発祥の地であり、古くから「たたら」製鉄で栄え、今でも世界で唯一、古来からの「たたら」操業を行い日本刀の原料となる「玉鋼（タマハガネ）」を生産しています。

本町は、地域資源を活用した仁多米、仁多牛、奥出雲椎茸、奥出雲酒造、高糖度トマトなどの地域ブランド化による産業の振興をはじめ、町 100% 出資の第三セクター設立による雇用の創出、空き工場・空き家を活用した企業誘致や定住対策の促進、亀嵩温泉玉峰山荘、サイクリングターミナルなどの地域間交流の促進、また、県立自然公園で国指定天然記念物の鬼の舌震、日本一のトラストアーチ橋がある奥出雲おろちループ、比婆道後帝釈国定公園の船通山や、鉄の歴史を今に伝える絲原記念館、可部屋集成館などの恵まれた自然と豊富な観光資源を活かした観光の振興などを進めております。特に合併後は、地域間格差の是正と均衡ある発展を目指す中で、いち早く情報通信網の整備に着手、全町で各家庭まで光ファイバーを接続した全国最先端の FTTH 網が完成し、超高速インターネット、ケーブルテレビ、IP 電話の利用はもとより、新たにテレビ電話による独居老人宅の見守りや在宅医療、生活支援サービスの構築を進めており、生活基盤・道路網の整備と併せ、健全な財政運営に努めながら合併後の一体感の醸成、地域経済の活性化に取り組んでいるまちです。

引用：奥出雲町 HP <http://www.town.okuizumo.shimane.jp/admin/townpresentation/townpresentation010/post-267.html>

奥出雲町について

人口総数 14,674 名 男：7,082 人 女：7,592 人 世帯総数：4,891  
 (奥出雲町 HP：<http://www.town.okuizumo.shimane.jp/>)



本プロジェクトでは奥出雲町内の蔵屋集落（人口約 100 名）の民家に宿泊しながら地域づくりを視察した。





## 集合



那覇空港に9時00分に集合。神戸空港行きのスカイマークに搭乗する。お昼ごはんを空港で買い飛行機の中かバスの中で食べるため、その購入時間を考えて早目の集合となった。

## 神戸空港に到着



神戸空港に到着するとバスの運転を担当する土江さんがお出迎え。MGP14のロゴを持って待っていてくれた。神戸空港の到着ロビーにはコンビニエンスストアがある。松江出身の土江さんは、「現地ではコンビニはすぐ近くにないので、買い物は今しておくといい」と、島根滞在のアドバイスをくださり、学生たちは慌てて買い物に走った。

## ワークショップ①



奥出雲町に向けて約4時間のバスの旅が始まった。バスの中では第一部の振り返りが行われ、またワークショップも開催し、忙しい4時間となる。

車窓は段々と山間部特有の景色に変わり、「どこへ連れて行かれるのだろう」という声が挙がる。加西サービスエリア(SA)では雪はなかったが、蒜山SAではすっかり雪景色。降り続く雪に、「雪を見たことがない」学生らは大喜び!

## 「綿密な事前準備が成功の秘訣」を合い言葉に打ち合わせを進める

2月2日(木)には、受け入れ先である「公益財団法人ふるさと島根定住財団」から担当者3名が来沖。挨拶も含めた打ち合わせの後、琉球大学キャンパスツアーを実施。大学本部棟の屋上からキャンパス全体を見渡してもらい、「風樹館」を見学後、琉陽橋を通り、図書館前で記念撮影。

更に、3月7日(火)からのツアーに向けて、中身の濃いツアー内容にするべく、双方の担当者が毎日のように連絡を取り合った。

この事前の綿密なやりとりが、プログラムの成否を決めるといっても過言ではない。



(公財)ふるさと島根定住財団の方々に来沖された時の様子



## 亀嵩温泉玉峰山荘に到着

亀嵩温泉玉峰山荘に到着すると、玄関には横断幕が掲げられており、学生たちは嬉しいやら恥ずかしいやら。

長旅の疲れを温泉につかって落とし、いよいよ今回の視察の中心地である蔵屋地域へ向かう。

山荘の支配人はバスから見えなくなるまでずっと手を振ってくださった。



## 蔵屋公会堂にて入村式

ふすまを開けると蔵屋地区の方々全員総立ち、横断幕と拍手で迎えてくれた。

テーブルの上にはごちそうの数々。山陰沖で獲れた魚、のりまき、そして地域のおばちゃんの手作り漬物。これがなによりまたうまい。



## 入村式の後には各民泊先へ移動

民泊先は5軒（大田屋（1泊のみ）、東京屋（大田屋で宿泊した学生が2日目に移動）、和田農園、和夢、田楽荘）。学生たちはそれぞれの民泊先に移動する。一般民家から茅葺きの古民家まで、バリエーションに富んでいる。

普段はストーブや湯たんぼなどを使用しない古民家もあるが、今回は沖縄からの訪問ということで特別に暖かくしてもらったようだ。それでも、学生によると「寒かった」そうだ。



お土産と手紙

## 奥出雲町と沖縄をつなげるモノとコト①宮古島のお菓子

今回参加した学生の一人のおじいさんとおばあさんが、宮古島で60年、お菓子屋を営んでいる。そのお店の「かるかん」を島根の方々へのお土産として持参した。入村式では、その学生にこのお土産についても話しをしてもらった。また、お土産には、「このかるかんが宮古島と島根をつなげる架け橋の一つであることを綴った手紙を添えた。



## 第1日目の学びのポイント

### 宮古島市での学びを振り返ることで宮古島の課題を明らかにする

2月22日（水）～23日（木）に実施した第一部の宮古島での学びを振り返ることで、注意すべき課題や島根県で見べきことを明らかにする。

### 地域を見て、聞いて、考える②

この日だけではないが、3泊4日を通して、「フィールドワークに参加し、身をもって体験し、見て、聞いて、考える」ことで、「過疎地域」「高齢化」「地域活性化」「地域づくり」などの意味を実際的に学ぶ。



#### 学生の感想 ※原文ママ

#### 3月7日（火）の振り返りシートから

##### ●法文学部4年女子

バスの中でのワークショップでみんなの意見を聞いて、宮古島の課題が明らかになり、今回のツアーで特に注目するべき点があった。

奥出雲の方々との交流で自分のふるさとを紹介すること、現地の方々の話を聞くことの大切さを知ることができた。分からないことが多く、失礼なことも言ってしまったかもしれない。なるべく失礼がないよう、でも分からない部分は質問していきたい。出雲弁が初日から聞いたことがとても嬉しかった！

##### ●法文学部3年女子

温かい人々でとても嬉しかった。温かく迎えてくれる感じが友利地区の方たちに似ていると感じた。地域についての様々なお話を聞いて楽しかった。沖縄との違いが面白かった。バスでのワークでみんなのアイデアが聞いてよかった。

##### ●法文学部3年男子

今まで行ったことのない地方の田舎の様子をみて感動した。雪や温泉に入ってみて沖縄との違いを確認して、普段とは違った様子を楽しむことができた。最初、山道を走っている時に、どこに連れて行かれるんだろうと思ったが、実際に場所に着いたら人も温かくて、盛り上がることもできた。自然が豊かで空気がおいしかった。



## 集合

朝起きると昨日よりさらに雪は積もり、降り続けている。

教員の宿泊施設は蔵屋地区から車で25分ほどの「恐竜博物館」。移動のバスはここから民泊先の一つ「和夢」を経て、蔵屋公民館へ。他の宿泊先からの学生も次々に集合。

この日、最初に行ったのは、「長靴に履き替える」こと。「靴の中が冷たいなんて初めてだ」という声も聞こえた。



## たたらと刀剣館

たたら製鉄と奥出雲町の関わりを学ぶ。

※「たたらと刀剣館」について（「奥出雲ごち」HPより抜粋）

日本で唯一、奥出雲の地で操業を続ける「日刀保たたら」で生産される和鋼「玉鋼」を用いて造られる「日本美術刀剣」について展示解説を行っている施設です。



## 追谷集落集会所でそば打ち体験

追谷集落集会所では、奥出雲そばの手打ち体験。みな上手にできた。「そば打ち」に新たな才能を見出した学生も！



## 追谷集落とたたらに関わりを学ぶ

そば打ちの後は自分で打ったそばに舌鼓。そして、追谷集落とたたら製鉄との関わりを学ぶため周辺の視察に向かう。

そば打ち体験とフィールドワークでは、奥出雲町のケーブルテレビ番組「ジョーホー奥出雲」の取材を受けた。



## 斐之上温泉

島根県は日本有数の良質の温泉地でもある。ドライヤーなども完備されていることから、毎日の入浴は、温泉施設を利用した。



## 集落体験

蔵屋公民館に戻り、集落体験。男子は自ら薪割りした薪でご飯を炊き、女子は島根のごちそう「にしめ」を、地域の方に教わりながら準備。

男子は寒さをものともせず、3時間ほどひたすら薪を割り続ける。この体験は翌日の餅つきにも生かされたようだ。



一方、女子は島根のごちそう「にしめ」を、地域の方から教わりながら準備。



## 直会体験

近所の3つの集落の方々も合流し、「直会」が開始された。終了後は、それぞれの民泊先へ移動。

※「直会」とは、神祭終了後、神饌（しんせん）や神酒（みき）のおろし物を参加者が分かち飲食する行事。





## 第2日目の学びのポイント

### 歴史・文化を守る地域に学ぶ②

たたら製鉄との関わりを通して、地域に住む人々が先人たちが積み重ねてきた知恵をどのように活用してきたのか、またそれらはどのように地域性や文化・習俗に織り込まれているのかを、宮古島や自分が関わってきた地域と比較しながら考える。複数の地域を比較して、共通する点、異なる点の両方を見つけ出すのが大事なポイントである。

### 多様性への気づきにつなげる

参加学生は、島根県を訪れるのは全員初めてということであった。これだけでも新しい経験ではあるが、奥出雲町蔵屋地区の日常生活に触れ、地域の方々と対話し、これまで自分を取り囲んできたもの以外の様々なことに関わることで、多くの発見をし、多様性への気づきを得る機会とする。



#### 学生の感想 ※原文ママ

#### 3月8日(水)の振り返りシートから

##### ●法文学部4年男子

島根の伝統を感じました。たたら製鉄について調べ、沖縄とは異なった文化を知ることができ、非常に良い思い出となった。そばを上手く作ることができなかったのが悔しかった。雪景色が美しい。

##### ●法文学部1年男子

奥出雲町とたたらが関連していることは前情報で知ってはいましたが、それがどう関係しているのか詳細を知ることができました。また薪割りなど、地域の人からしたら当たり前の作業でも自分達、外部の人間からしたらとても楽しく感じられたのは、何か、地域振興のヒントになるかもしれないと感じました。

##### ●法文学部3年男子

たたら製鉄技法が伝統的なものを受け継いでいて現代技術に頼ることだけが良いことではないと感じました。また、材料となる木炭を採取するために伐採した跡地を水田に利用して環境破壊だけで終わらないところがすごいなと思いました。そば作りは楽しく、自分の新たな才能を見つけました。



## 集合

この日も朝から雪が舞う。蔵屋公民館に集合。少しでも時間があると雪とたわむれる学生たち。遠藤先生が作った雪だるまを囲んで記念撮影も。石垣出身の学生は雪国スタイルがすっかり堂に入るなど、適応力の高さを見せた。



## 伝統産業会館で座学

主催であるふるさと島根定住財団の活動内容、また、奥出雲町の定住施策についての説明を伺う。この日から、「地元学」を援用し、グループに分かれ、グループ内で各自の役割を決めて活動。このことを主催側にも伝え、協力して頂いた。



## 「高田みんなの学校」視察

空き家となっていた古民家を改築して図書館にしている「高田みんなの学校」を視察。

※「高田みんなの学校」について（「高田みんなの学校」HPより抜粋）  
高田みんなの学校は、島根県奥出雲町の小さな集落「高田地区」にあります。今は時代が大きく変わる時。答えがあった時代から、答えがないために自ら課題を設定しなくてはならない時代変わっていきます。私たちは学びによって多様な価値観と触れることを通じて、この小さな社会から生き心地のよい社会をつくっていきます。



## 「みんなの場所まつ」を視察

奥出雲町の有名な菓子店である「松葉屋」の店舗だった建物を、「誰もが寄れて楽しめるみんなの場所」をコンセプトに高校生などの居場所スペースとして開放している「みんなの場所まつ」を視察した。



## 昼食

UI ターンで奥出雲に戻られた夫婦が経営する「ビストロソラ」でランチ。



## 「かがり屋」を視察

元ガソリンスタンドだった場所をゲストハウスに改築中の「かがり屋」を視察。ここから、島根大学、島根県立大学、鳥取大学の学生も合流し、交流を深める。

※「かがり屋」について（「TALK LIVE @TOKYO」チラシより抜粋）

自然・人・食・空間を体感するゲストハウス。名前の由来でもある「かがり火」のように宿泊した方が心に火を点灯し、生きていることの証を感じる場所、戻りたくなる場所を目指す。



## ワークショップ②： 多根自然博物館にて

多根自然博物館（恐竜博物館）にて「2日間の気付きのワークショップ」が奥出雲町地域おこし協力隊2名によって行われた。「かがり屋」から合流した島根大学、島根県立大学、鳥取大学の学生らも一緒に学びを深めた。

この時に、地元紙「山陰中央新報」（P.53 参照）の取材を受ける。



## 長者の湯

多根自然博物館から徒歩1分程度のところにある「長者の湯」に行く。



## 離村式&懇親会

離村式の準備も皆で行う。この日は、20年の伝統を持つ「蔵屋杵餅会」の主催で餅つき。皆、初めての餅つき体験に大喜び。懇親会では、沖縄の伝統菓子であるサーターアンダギーとちんぴん（ポーポー）を学生が作り、蔵屋地区の皆さんに食べてもらう。最後に寄せ書きを渡して、名残を惜しみながら閉会した。

## 最後は全員で記念撮影



左上から時計回りに、「ポーポーを作っている様子。合流した島根大学、鳥取大学、島根県立大学の学生、地域の子どもらも参加して皆で作る」、「サーターアンダギーを作っている学生ら」、「寄せ書き」

## 奥出雲町と沖縄をつなげる モノとコト② 沖縄のお菓子と寄せ書き

滞在中は島根県奥出雲町蔵屋地区に伝わる伝統料理で温かいおもてなしを受けた。そのお礼の意味も込めて、学生たちは、沖縄の伝統菓子であるサーターアンダギーとちんぴん（ポーポー）の粉を持参してその場で菓子を作り、地区の皆さんにふるまった。

また形に残るお礼として色紙を用意。参加学生が地区の皆さんに向けて一言ずつ寄せ書きし、最後に渡した。

第二部 3日目は終了、4日目へ



## 第3日目の学びのポイント

### 多様な文化や価値を理解し、自分の考えを整理して伝える

島根大学、島根県立大学、鳥取大学の学生らに合流してもらい、本学の学生と一緒にワークショップを行った。生活地域・環境の異なる同年代との交流を通じ、文化や価値観の多様性をより深く理解する力を身に付けることが目標。また、意見交換を通じて、自らが感じ、考えたことをうまく伝える能力を磨くことも重要なポイントである。

### 自分の強みを地域の人々に認めてもらい、小さな成功体験を作る

参加学生は、様々な状況で自分の持つ技能や才能などを発揮する。それを地域の方々に認めてもらうことで、自分への自信へとつなげる。一つひとつは小さなものであっても、こうした小さな成功体験を築き、積み重ねていくことが、本プロジェクトに限らず重要な成長源となる。



#### 学生の感想 ※原文ママ

#### 3月9日(木)の振り返りシートから

##### ●法文学部4年女子

今日は空き家を活用している方の所へ視察に行きました。様々な形で活用していたのですが、みなさん人のつながりを大切にされていて、そのつながりを深く、太くしたいという想いは共通していると思いました。また、奥出雲は個人の方々の想いや活動も大きいのですが、行政の方々の協力もとてもあって、二方の協力があるからこそ、できる地域おこしだと感じました。

##### ●法文学部2年男子

空き家活用の事例として4軒ほど回ったけれど、それぞれ特徴があって参考になった。資金を集めるのに、クラウドファンディングがあって、SNSを活用して情報を発信することが必要。またかがり屋でも人集めにSNSを活用しており、情報発信がキーワードになるんじゃないかと思った。

##### ●法文学部2年男子

今日のプログラムはより課題に沿った内容で宮古にも活かせることが多くあった。特に空き家を図書館や誰でも入れることができるというように作り変えており、とても学びになった。

##### ●法文学部3年女子

改めて、地域の人々が元気があって地域を良くしようと活発に活動されていて、素晴らしいなと感じました。田舎には視点を変えれば「何でもある」という発想が、何でも通じるものなのかと思います。あきらめることは簡単だけど、チャレンジする勇気を持つことが現状を良くするキーワードだと思いました。

##### ●法文学部3年女子

地域の子たちが本にふれるきっかけをつくる。勉強する場所をつくるなど、子ども達のために思って、空き家を活用していることが、いいと思った。地域起こし協力隊の人達がエネルギッシュでとてもいいと思った。鳥取、島根の学生とも交流することができてとてもよかった。ワークショップもみんなの考えがきけてよかった。もちつきも楽しかった。



## 神戸空港に向けて出発

出発日。バスが待つ蔵屋公民館の前には早朝から地域の方々が集まり、見送ってくださった。別れが惜しまれ、涙が出た。

奥出雲町の皆さん、蔵屋地区の皆さん、追谷集落の皆さん、民泊（大田屋、東京屋、和田農園、和夢、田楽荘）の皆さん、本当にありがとうございました。



## 奥出雲町と沖縄をつなげる モノとコト③思いがけず現れた学生たちの強み

### 小さな成功体験の積み重ねときっかけの重要性

3泊4日の最終日。それまでお見えにならなかった地域の方々も見送りにいらっしやった。知人が直会や懇親会などの準備の時に学生と触れ合った話を聞いて興味を持った方などだ。また、高齢の方を自宅まで手を携えて夜道を送って行った学生がおり、そのことがあつという間に集落内に広まり、この行動に感動し感謝してお見送りに来てくださった方も。当事者である学生の「いやあ、オレ、おじいちゃんよりおばあちゃん好きだから」と照れながら話していた姿が印象的だった。

また、今回の「民泊」は、蔵屋地区でも試行的な取り組みでもあった。中心となっている人から、「これまで田舎ツー（注：田舎ツーリズム）とかに関心なかった層が、やっと君たちのしようとしていることが分かったと歩み寄られた」という話を聞き、地域が動くためには「小さな成功体験の積み重ね」と「きっかけ」が非常に重要であることを改めて感じている。



冷え込みが厳しい早朝、まだ薄暗いうちから集まってくれた住民の方々。足腰が弱く、立っているのは難しいからと、ビールケースに腰かけて学生達の様子に目を細めている方もいらっしやった

## 出会いで成長し、別れで強くなる

3泊4日の滞在初日から最終日まで、民泊先の1つである「大田屋」のお子さん2人もお父さんとお母さん、おばあちゃんと一緒にずっと来てくれていた。

学生らと仲良くなった2人。女の子の方はお見送り当日の朝、早起きしてお礼にイラストを描いて学生達に渡していた。一方、男の子の方とはいうと、前日まで学生と大はしゃぎをしていたが、最終日当日は笑顔も言葉もなかった。

写真右上から時計回りに、「笑顔の学生を横にどこまでも笑顔がない男の子」、「早起きして描いたイラストを渡す女の子」、「上手に描けているイラスト」



**●法文学部4年男子**

今回島根県奥出雲町の旅を通して、田舎の素晴らしさを実感することができた。温泉、雪、囲炉裏など普段経験することのない様々なものに触れることで新しい感覚を覚え、さらに新しいものを自分の中に取り入れていきたいと思った。また、空き家を図書館やゲストハウスに生まれ変わらす発想も非常に魅力的であり、空き家の可能性は無限大だと感じた。今回の視察を参考に良いアイデアを提供していきたいと思う。奥出雲の方々はみな親切で、とても充実した4日間を過ごすことができた。食事を用意してくれたり、様々なことを教えてくれたりと、健康的な生活の中で自分を成長させてくれたことに感謝したい。また今後は地元のみならずお世話になった奥出雲街にも何か良いものを提供してこのつながりを大切にしたいと思う。

**●法文学部1年男子**

今回の3泊4日の行程を終えて、感じたことは、空き家・地域おこしの知識が増えたことはもちろんなのですが、人生を経ていく中で必要になる考え方も学べたということです。田舎に住んでいる（元々から）だけでなく、東京などから移住した人など自分とは全く違う環境に身を置いている人の話を聞くのは新鮮でした。地域おこしの視察で印象に残ったのは高田みんなの学校です。高田みんなの学校の会計（の担当の方）の話の中の、無理せずにやっていくことが大事という文言が町おこしをやっている意見として大事だと感じたからです。友利地区の活性化に島根で学んだことを取り入れていきますが、地域の人が負担に思わないことを前提に案を出して推敲していきたいと考えました。

**●法文学部3年男子**

島根県で3泊4日を通して感じた事は地域住民の方々地域振興にとっても熱心だなと思いました。自分の地域を自分達で盛り上げようという考え方はとても素晴らしいなと感動しました。また、自分達の地域資源を活かしての取組は勉強になり、ぜひ宮古島に帰ってからもどんな事したいのか詳しく説明したいです。田舎だから夢がないのではなく、将来の日本をみたとときの先進地域として夢をもたせることができる。何事にもプラスに考えチャレンジしていく姿勢というのはすごく心を打たれます。本当に快く私達を受け入れてくれた奥出雲の方々にはとても感謝します。次は沖縄に来てもらう番です。これからは沖縄と島根の交流をもっと広げてお互いに刺激し合っていく必要があると感じました。

**●法文学部3年女子**

奥出雲の方達は、伝統ぶんか、歴史、自然を大切に、それらをこれからも受け継いでいこうという感じがすごく伝わったし、田舎だから何もない、ではなく、ないものは自分達の力でどうにかしようという前向きな考えを持っている人が多いな、と思いました。また、民泊を受け入れた方をはじめ、地域の皆様がよそ者の私達を温かく迎え入れてくれて、奥出雲の方達との御縁を大切に、島根県、奥出雲の良さを沖縄の人達にも知ってもらいたいと思ったし、宮古島を元気にするのと同時に奥出雲にももっと元気になってもらいたいです。空き家に関しても資金が少ない中、地域の人々の手伝い、寄付といった力で地域のために活用されている所が素晴らしいな、と思いました。過疎化が進んでいる地域は子どもが少なく、学校もほとんどクラス替えが行われなく価値観の同質化、可能性を閉ざす傾向があり、若いうちから周りの大人や多様な価値観と触れ合う機会が重要だと感じたし、そういう機会をつくってあげることが、子どもや若者を地域に根付かせることにつながるのかな、と思いました。また、地域の良さはどんどんPRした方が良かったし、弱さも周りに知ってもらい改善点を地域一丸となって考えていくことが重要だな、と感じました。最初から完成形を目指すハードルが高いし、行動に移す勇気、チャレンジしていく勇気を持つことが地域おこしで重要なところだと思います。

